

ぎふ感染症かわら版

平成 30 年 7 月 13 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



夏休みに海外旅行をする方は、感染症予防に心がけましょう！

海外では、日本ではかかることのない感染症にかかってしまうこともあります。安全な旅行ができるよう、感染症に関する正しい知識と予防方法を身につけましょう。

海外での感染症予防のポイント



● こまめな手洗いを

手洗いは感染症予防の基本です。
食事前やトイレの後は、石けんと流水で手を洗いましょう。
きれいな水が使えない場合は、手洗い後に
アルコール製剤で消毒することも効果的です。



消毒用のウェット
ティッシュなどが
あると便利です



● 生水や生の食べ物に注意

衛生環境の悪い地域では、水はボトル入りのものを飲みましょう。
氷の入った飲み物、カットフルーツやサラダ、生肉・生魚なども避けましょう。

● 蚊に刺されないよう対策を

肌を出さないように服装に気をつけて、虫よけスプレーを使いましょう。



● 動物にむやみに近づかない

野生動物や、街に放し飼いにされている犬や猫に近づかないようにしましょう。

渡航前と帰国後に気を付けること

- ★ 海外へ渡航する前に、行き先の地域でどのような感染症が流行しているか詳しい情報を確認しましょう。

参考となるホームページ：FORTH/厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>



- ★ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方や蚊に刺された、動物に咬まれたなど心配なことがある方は、空港や港の検疫ブースで検疫官に申し出ましょう。
- ★ 感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が長いものもあり、帰国後数日してから具合が悪くなることがあります。その際はすぐに医療機関を受診し、渡航先や滞在期間、現地での行動について必ず医師に伝えてください。
- ★ その他、不安なことがある場合は、検疫所または保健所にご相談ください。



⚠️ 海外で気をつけたい主な感染症 ✈️

飲み水・食べ物からうつる感染症

コレラ・赤痢・腸チフス・A型肝炎など

衛生環境の悪い地域では、水が様々な病原体に汚染されていることがあります。水はボトル入りのものを飲みましょう。

海外の屋台などでは、飲み物に入っている氷、カットフルーツやサラダなども現地の生水が使用されている場合があるので注意しましょう。

生肉、生魚なども避け、十分に加熱されたものを食べましょう。



蚊が媒介する感染症

デング熱・チクングニア熱・ジカ熱・マラリアなど

アジア、中南米など熱帯・亜熱帯地域では、蚊が媒介する感染症が流行しています。

特に、日本からの渡航者が多い東南・南アジアの国々で

デング熱に感染する人が多くなっています。

流行地域では、長袖・長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きを避けるなど、肌を出さない服装を心がけ、虫よけスプレーも活用しましょう。

※ ジカ熱は、妊娠中に感染すると胎児に小頭症などを起こすことがあるため、妊婦の方はジカ熱の流行地への渡航を控えた方がよいとされています。



人からうつる感染症

麻しん・風しんなど

麻しんや風しんは、世界各地で流行しています。

特に麻しんは、感染力が強いいため、海外で感染して帰国した場合、国内で多くの人にうつしてしまうことがあります。

今年の3～6月には、麻しんに感染していた一人の台湾人旅行客を発端に、沖縄県や愛知県を中心に国内で100人を超える人に感染が広がりました。

麻しん・風しんともに、ワクチンで予防ができますので、

これまでに予防接種を受けたことがない人、または接種歴が不明の人は、渡航前の予防接種をおすすめします。



動物からうつる感染症

鳥インフルエンザ・^{マーズ}MERS・狂犬病など

鳥インフルエンザは、主に中国や東南アジアで発生しています。

これらの地域では、生きた鳥を売る市場などに近づかないようにしましょう。

^{マーズ}MERSは主に中東で発生があり、ヒトコブラクダが感染源の一つと

考えられていますので、中東ではラクダに触ることは避けましょう。



その他にも、動物からうつる感染症は数多くあります。

放し飼いの犬や猫、野生動物には近づかないことが安全です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

